

■Who are we? (活動理念)

先端国際精神医学講座は、京都大学医学研究科の新たな取組みの一環として、平成24年度に新たに開設されました。私たちの講座では、精神医学の基礎的研究から臨床に役立つような橋渡し研究を行い、それらの成果を社会へ還元してゆくことを目的の一つにしています。これらの研究活動に加え、将来の精神医学に必要な人材を教育し、グローバルな視点で養成してゆきたいと考えています。また全米第一位との客観的評価をいただいておりますジョンズホプキンス大学医学部附属病院と、京都大学医学部附属病院の精神科神経科における、臨床診療活動を、うまく連携させたいと考えています。すなわち、細かく分類されている精神神経医学分野を眺め直し、脳とこころのはたらきをよりよく理解すること、精神神経科領域で扱う諸問題に対して、正しい科学的根拠に基づいた対処法を模索すること、そしてその普及に役立てるような様々な取組みを行います。

■広報活動

このような目標を達成するための活動の一環として、精神医学領域の研究成果やトピックを、今現在精神神経科領域にかかわる健康上の問題をかかえ

る方、及びそのご家族、あるいは、精神医療に関心のある方や医学研究になじみのない一般の方々にもわかりやすく解説するために、年3回ほどのニュースレターの発行を計画しています。

このような活動を私たちが行うのは、狭義の精神疾患だけでなく広義の脳とこころのはたらきの障害として扱うべき諸問題の生涯有病率が約20%とも言われる現状に対して、誰も無関心でいられないという現状があり、そして、社会としての取組みが必要であり、社会全体の啓蒙が不可欠になってきたと考えるからです。

精神神経科領域における、病態の原因を明らかにしようという取組みと新たな治療法の開発は、近年、アカデミックな研究と製薬会社による創薬の取組みが交錯する最もホットな分野として国際的な広がりをみせてきています。このような時代に、よりよい21世紀の精神医療に貢献できるよう、最新の精神医学の考え方、新たなアプローチ等をご紹介していきたいと考えています。

■今後の予定

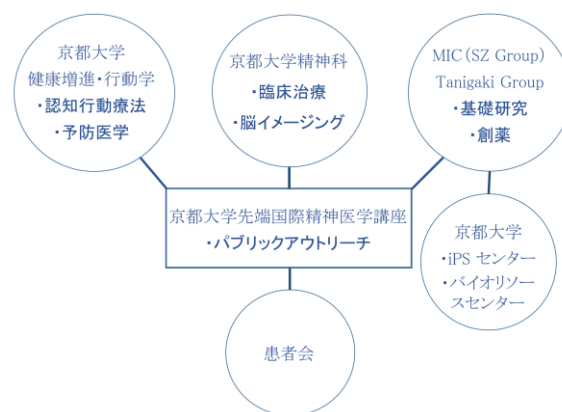
我々は、京都大学における臨床治療の拠点である京都大学附属病院精神科神経科、こころの病態に対する認知行

動療法や予防医学的アプローチを行っている医学研究科社会健康医学専攻健康増進・行動学分野、そして、基礎研究と臨床応用の橋渡し研究をするメディカルイノベーションセンター(MIC)、さらに、関連の研究施設とも連携し、精神医学分野の最新の話題をご紹介します。

狭義の精神疾患（統合失調症、双極性障害、うつ病など）だけでなく、自閉症を含む発達障害、ADHD（注意欠陥多動性障害）、学習障害、PTSD（心的障害後ストレス症候群）、また特定稀少疾患で精神に関わる症状を呈する症候群などのトピックを毎回とりあげます。また、ジョンスホプキンス大学医学部精神神経科においては薬物治療に抵抗性のある統合失調症の患者様に対して深部脳刺激による探索的治療が始められつつありますが、このような諸外国での新たな治療の試みも随時話題提供します。

近年の研究の進展から、精神科領域の諸問題を理解しよりよい対処をしていくには、症状が前面にあられる前

の生物学的、社会的要因を考慮する必要がありとされています。この早期に適切な介入を行うことが長期的予後や症状の軽減に役立つという予防医学的視点、その生物学的根拠など、最近のトピックを次回は取り上げたいと思います。また、我々は患者会のご協力を得て、精神神経科領域の諸問題を共に学び、考えていくような機会をもちたいと考えており、今後我々の講座の活動の一環として、シンポジウムの開催などを通じて社会の皆様還元していけるような機会を模索していきたいと考えております。



概念組織図

最近の活動報告

2013年9月7日に大阪市にて開催された、22 ハートクラブ（染色体微細欠失症候群の一つである 22q11.2 deletion syndrome の患者家族会）の年会において、メディカルイノベーションセンター所属の友田利文准教授、滋賀成人病センターの谷垣健二博士が精神神経疾患の基礎科学に関する講演を行わせていただきました。